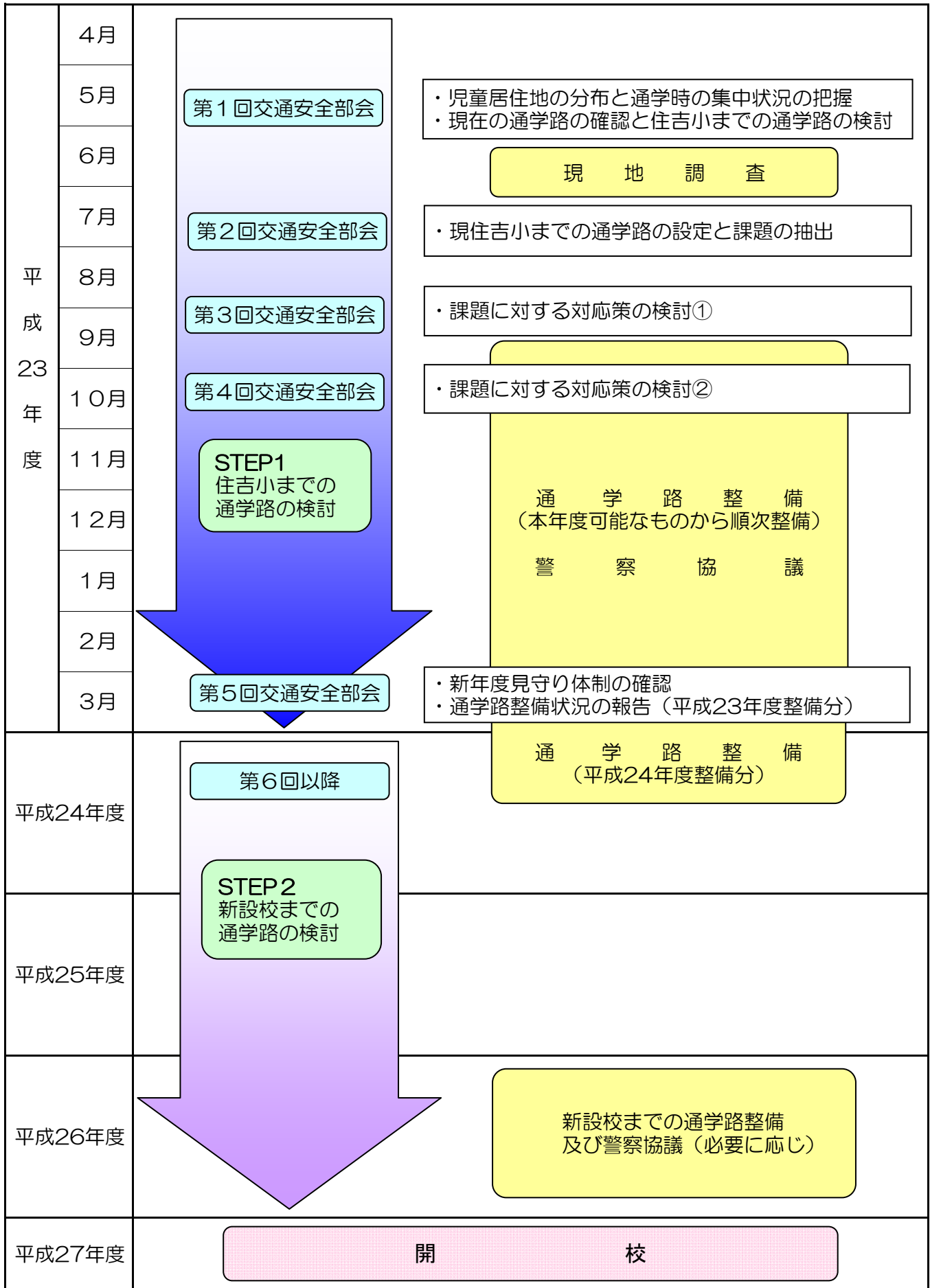


第1回住吉中学校ブロック交通安全部会

資 料

1. 交通安全部会検討スケジュール	P1
2. 現住吉小学校までの通学路設定の考え方	P2
3. 住吉小校区・美野島小校区の幼児・児童・生徒数	P3
4. 通学時に見込まれる児童の集中状況	P4
5. 現在の基本となる通学路	P5
6. 想定される通学路案	P6

1. 交通安全部会検討スケジュール



2. 現住吉小学校までの通学路設定の考え方

◇通学路設定の基本的な考え方

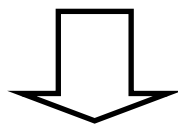
- できるだけ歩車道の区別のある道路に設定する。
- 歩車道の区別がない場合は、できるだけ交通量が少なく安全な歩行ができる幅員の道路に設定する。
- 遮断機のない無人踏切や見通しの悪い箇所などの危険箇所をできるだけ避ける。
- 横断歩道、信号機の設置状況等を考慮し、安全に道路を横断できるようにする。

◇通学路決定の手順

- ①毎年各学校で、保護者や地域の交通安全推進委員会等と連携して、通学路の調査を実施
- ②上記調査結果をもとに、安全性を考慮した上で、校長が「基本となる通学路」を決定
- ③保護者は、自宅から「基本となる通学路」までの経路を、安全性を考慮して決定

◇住吉・美野島両校区の現状

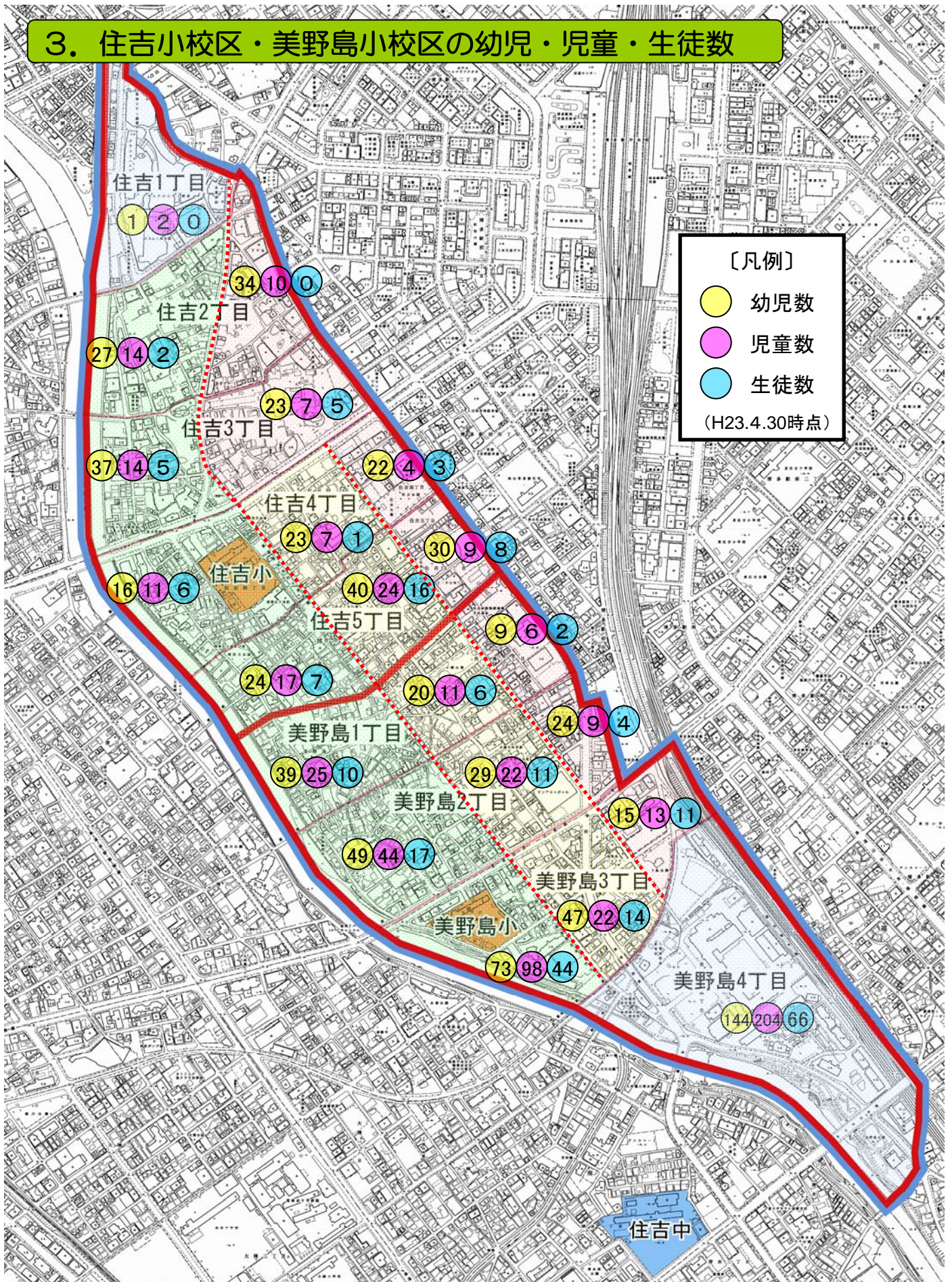
- 両校区を南北に走る道路は細い道が多く、車両の通行も多い。
- 百年橋通り、住吉通りなど、通学時に横断しなければならない大きな道路がある。
※百年橋通りには歩道橋あり
- 両校区においては、引き続き「博多駅地区緊急浸水対策事業」の実施が予定されている。



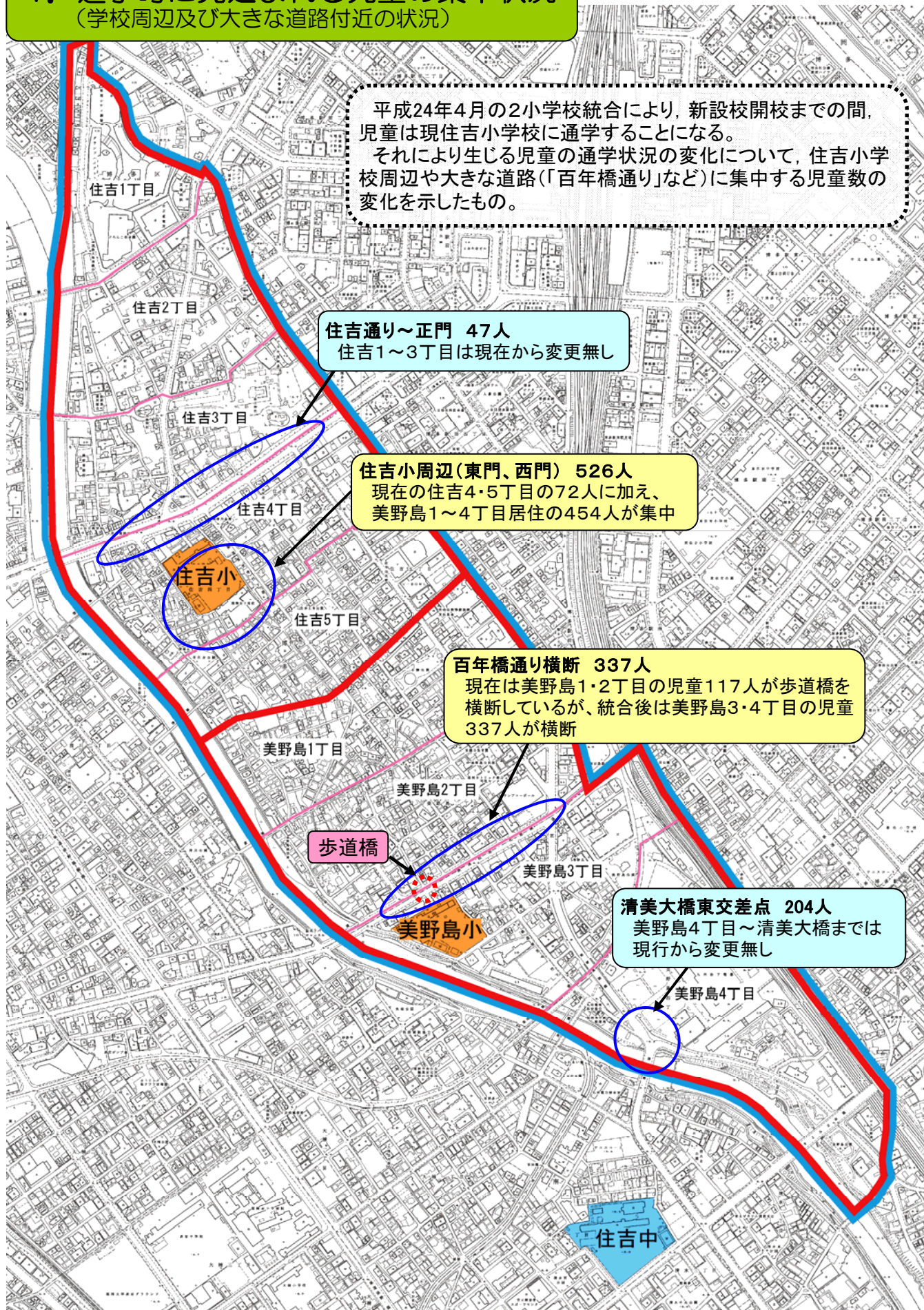
現住吉小学校までの通学路設定の考え方

- ◇現在通い慣れた通学路を優先的に利用する。
- ◇両小学校の通学路の接続点の安全を確保する。
- ◇道路のカラー舗装化等による歩車分離を進めていく。
- ◇百年橋通りを横断する児童が増加することから、横断箇所の分散化や見守り態勢の強化を検討する。
- ◇「博多駅地区緊急浸水対策事業」の予定を踏まえ、通学路の設定に際し、工事箇所の回避等について検討する。

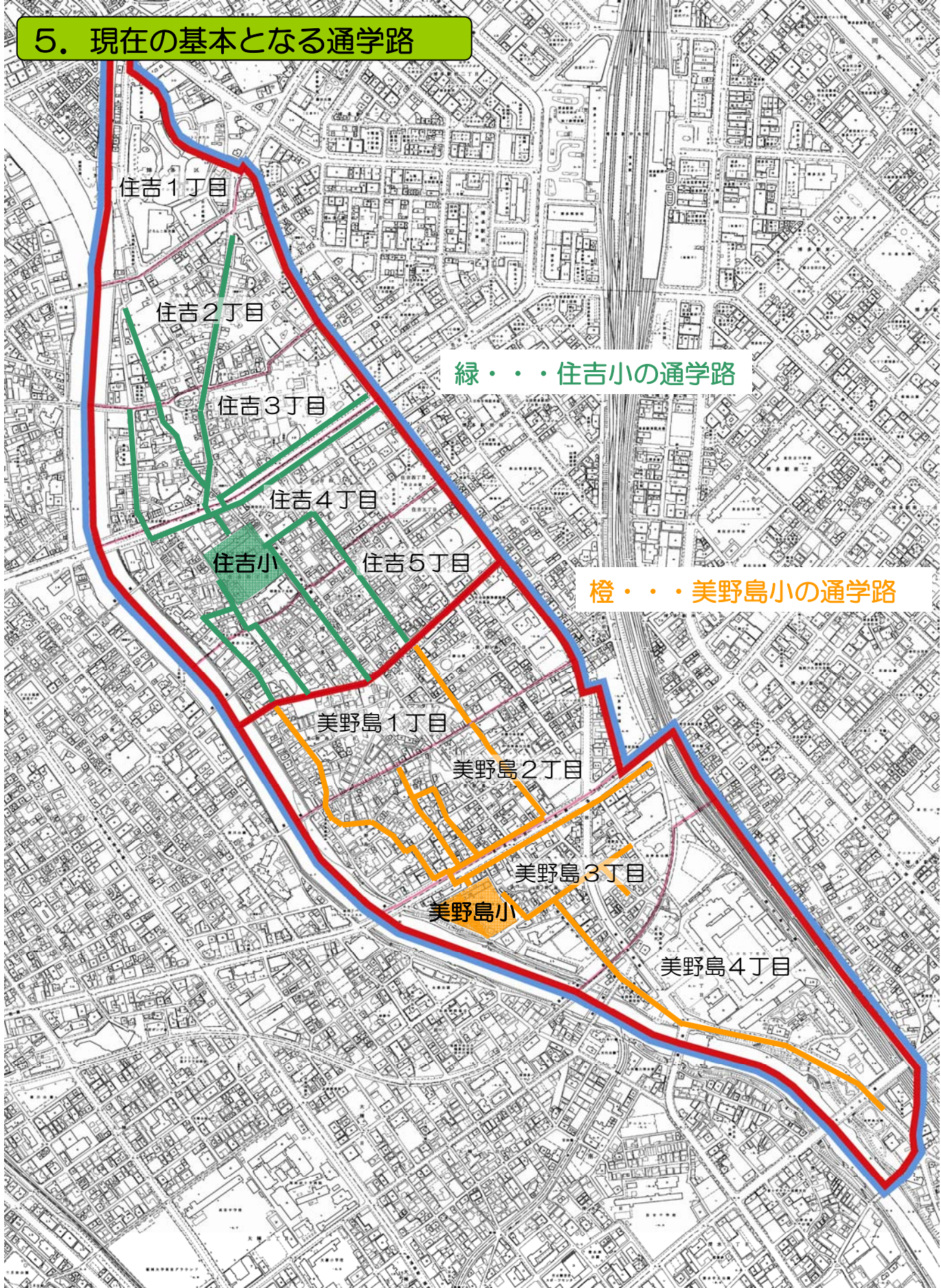
3. 住吉小校区・美野島小校区の幼児・児童・生徒数



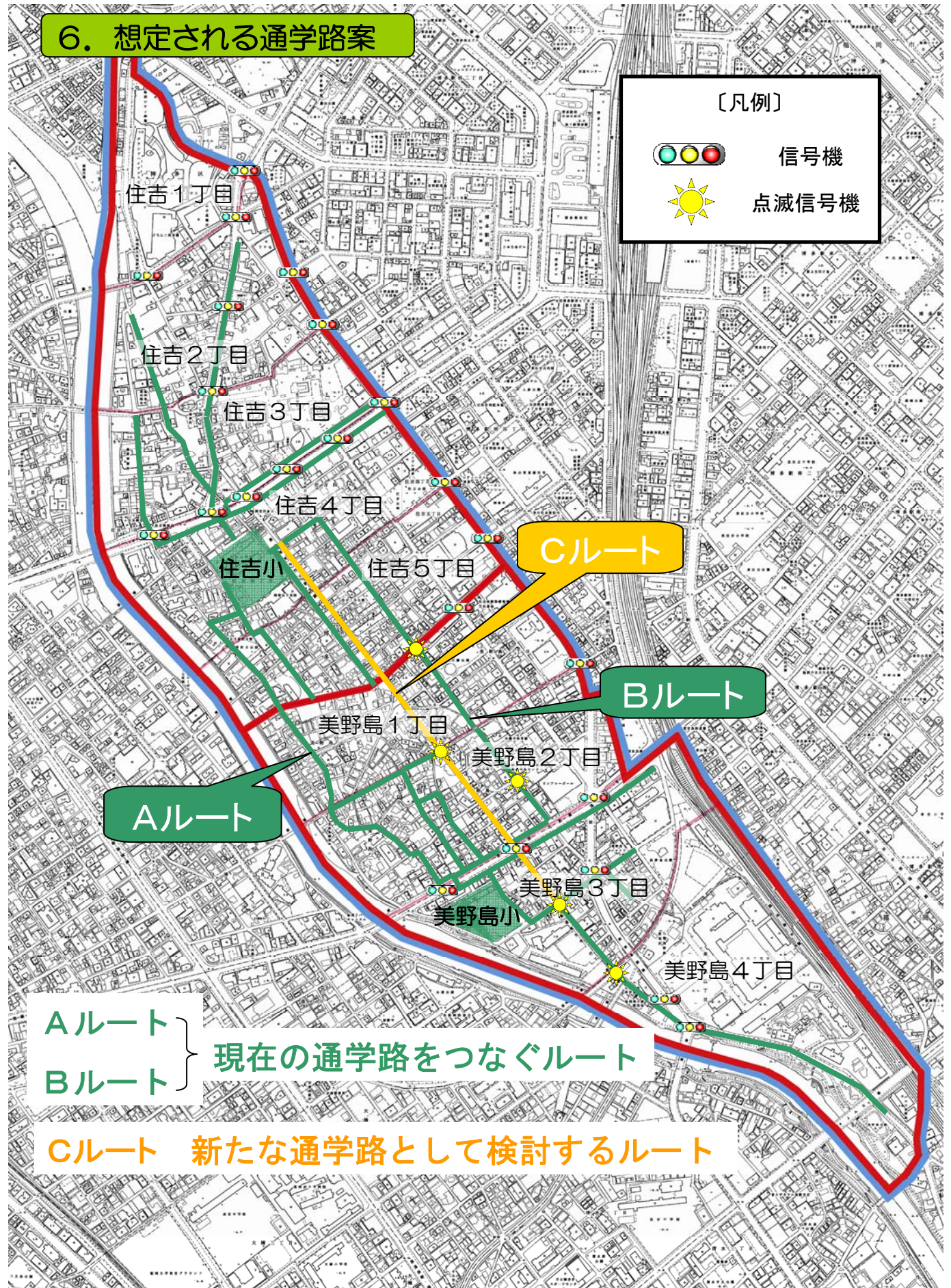
4. 通学時に見込まれる児童の集中状況 (学校周辺及び大きな道路付近の状況)



5. 現在の基本となる通学路



6. 想定される通学路案



〔凡例〕



信号機



点滅信号機

Aルート

Cルート

Bルート

Aルート

Bルート

現在の通学路をつなぐルート

Cルート 新たな通学路として検討するルート